

奇跡の湯



とよとみ

豊富町

温泉を核とした町づくり

豊富温泉の歴史 「奇跡の湯」がまちをかえる

宗谷管内の中央に位置する豊富町。町の人口は約3900人であり、基幹産業は、Secomaのオリジナル牛乳『北海道とよとみしほり』などで有名な酪農業と雄大なサロベツ原野など自然の恵みを生かした観光業です。

かつては、日本最北の温泉郷として栄え、昭和後期には道内外から多くの観光客が訪れましたが、団体旅行から個人旅行へと旅行形態が変化した上、近隣市町村の温泉開業等の影響により、次第に客足は減少し、現在は、町の温泉街にホテル3軒と旅館1軒、町営の日帰り入浴施設「ふれあいセンター」が営業するのみとなっております。



▲豊富温泉街。左手前の青い屋根の建物が「ふれあいセンター」



▲すくったお湯に油が浮いている

しかし、平成となり転機が訪れます。

豊富温泉のお湯は油を含んだ泉質で、皮膚疾患に高い効能がありました。この泉質は世界でも2か所しかなく、日本では豊富温泉のみと言われるほど希少な温泉だったのです。平成10年以降、乾癬（かんせん）やアトピーなど皮膚疾患で困っている人たちの間で、「豊富温泉のお湯が肌に効く！」と話題になり、豊富温泉の評判が口コミやマスコミ報道で全国に広がり、長期湯治者が増え始めました。そこで、町では、湯治客をさらに取り込むため、「ふれあいセンター」に湯治用浴槽を整備するとともに、安価な自炊型宿泊施設として豊富町温泉保養宿泊所「湯快宿」をオープンするなど、「奇跡の湯」を活用したまちづくりがスタートしました。



▲コンシェルジュスタッフによる相談

「つなぐ」の湯治で 温泉利用客を拡大

乾燥やアトピーの悩みを抱える方は、かゆみなどの症状が仕事や勉強に影響を与えたり、発疹等の外見から精神的な負担を抱える方も少なくありません。そこで、町では身体のケアはもとより、心のケアも重要と考え、「ふれあいセンター」に保健師や看護師の資格を持つ健康相談員を配置したほか、湯治方法や生活相談に対応するため、コンシェルジュスタッフを配置し、平均滞在が2週間に及ぶ湯治客へのサポートを開始しました。特に、コンシェルジュスタッフは、湯治を契機として移住した方々を積極的に雇用し、自らの体験も踏まえたアドバイスを行うことで、皮膚病患者の視点に立った親身な相談対応が可能となり、心と身体への湯治が可能な温泉として高い評価をいただくようになりました。



▲「つなぐ市」の状況。多くのお客様が訪れる

また、移住された方々が、豊富町への恩返しとして、「豊富温泉にあつたらいいな」をかたちにして、「ふれあい言葉」に、「豊富温泉もりあげ隊」を結成。夏場に、スキー場ロッジを活用した「ナツカフェ」を営業したり、ハンドメイドマーケットである「つなぐ市」を開催するなど、住民主体の取組も活発に行われるようになりました。



▶「つなぐ市」のチラシ。平成26年から毎年開催している

リゾートウヅ さらなる発展を目指して

町では、平成27年4月に「湯快宿」をリニューアルするとともに、平成29年5月には特産品の販売や観光情報を案内する交流施設「湯の杜ほっけ」をオープンしました。

また、同年7月、厚生労働省から「健康増進施設認定制度」の「温泉利用型健康増進施設」として「ふれあいセンター」が道内で初めて認定され、温泉までの交通費や施設利用料が所得税の医療費控除の対象となったことで、遠方から湯治に来られる方の負担が軽減されるようになりました。すると、「奇跡の湯」を求めて、同制度の利用者が急増。認定から6か月間の間に、前年の「温泉利用型健康増進施設（全国20施設）」の利用者数を上回る結果となり、豊富温泉の実績は国からも高い評価を受けています。

さらに、町では、入浴料の免除や住宅費の一部を補助する湯治留学制度を創設し、湯治療養のため、道外の小中学生3人を受け入れています。また、稚内北星学園大学では、豊富温泉で療養しながら大学で学ぼうとする学生に対し、交通費などの経済的負担を軽減するため、授業料の一部を免除する制度を導入するなど、学官連携の取組を進めています。

このような取組の結果、豊富温泉は

健康増進施設認定制度

Point!!

国民が安全で効果的な健康づくりに取り組める「健康増進施設」の整備を図ることを目的とする厚生労働大臣の認定制度。温泉利用型等の健康増進施設で一定の利用方法が行われた場合、そのための費用（施設利用料、指導料、往復交通費）が所得税法第73条に基づく医療費控除の対象となる。

- ◇ 運動型健康増進施設
健康増進のための有酸素運動を安全かつ適切に行うことができる施設
- ◇ 温泉利用型健康増進施設
健康増進のための温泉利用及び運動を安全かつ適切に行うことができる施設
- ◇ 温泉利用プログラム型健康増進施設
温泉利用を中心とした健康増進のための温泉利用プログラムを有し、安全かつ適切に行うことのできる施設

「温泉総選挙2016」の健康増進部門で3位となったほか、「第10回ヘルスツーリズム大賞（2017年度）」では大賞を受賞したことにより、全国的な知名度も向上し、国内の皮膚科や温泉療法の医師から豊富温泉での湯治治療を勧められる声も多く、豊富温泉の注目度は更に高まっています。

町では、今後も、世界的にも類をみない貴重な泉質を有する温泉を生かしたまちづくりを進め、多くの湯治客を迎え入れたいと考えています。

地域を創る人

ひだか
日高編

09 なかがわ みつぐ
中川 貢さん

観光への挑戦

稼げるまちを目指して



● 一般社団法人浦河観光協会事業戦略部長（写真左）
● 平成25年9月から平成28年3月まで、浦河町地域おこし協力隊として活躍。



「オオワシ・オジロワシウォッチングツアー」

ニュージージーランドのクライストチャーチでツアーガイド・コイデイナーターとして観光業に従事した経歴を持つ中川さん。海外から日本に帰国した後、平成25年から約2年6か月の間、浦河町の地域おこし協力隊として、20本のツアーや着地型の観光プログラムを実施しました。特に、馬房掃除などの厩舎作業が体験できる「乗馬レッスンプログラム」や軽妙なトークが自慢の魚屋さんによる「魚さばき体験とランチ」といった浦河町の地域資源を生かした体験型プログラムは非常に好評で、リピーターの方も多いと聞きます。

また、地元で溶け込んでいるからこそ、町民では気づかない浦河町の魅力についても注目。毎年越冬のためにロシアから飛来するオオワシやオジロワシの観察ツアーなど「浦河町でしかできない体験」にどれほどの価値があるのか、『よそのもの』が見つけた町の良さを、小学校の授業などを通じて子供達へ伝えることで、地元への愛着心を育む活動も行ってきました。

地域おこし協力隊の任期終了後、平成28年4月からは一般社団法人浦河観光協会に勤務し、深刻化する人口減少や地域経済の縮小を見据え、観光を手段としたまちづくりにも取り組んでいます。

「この地域は観光にあまり力を入れてこなかったこともあり、観光に携わる人材の不足を痛感しています」と語る中川さん。そこで、平成27年から開催している「観光ワーキング会議」では、行政職員や民間事業者のほか、町民有志も参加しながら、観光やまちづくりについても議論しています。「今後は、より多くの町民がまちづくりに興味を持ち、主体的に活動する町になれば活性化が更に進むと思います」と語ります。

また、浦河町、様似町、えりも町、広尾町の四町エリアの広域観光振興を行う四町広域宣伝協議会の事務局を一般社団法人浦河観光協会が担っており、「単独の町だけでは、観光振興はなかなか難しいが、このエリアにある豊富な資源を観光に生かすことができれば、国内外を問わず、多くの方々に楽しんでもらえるはず」と広域観光の可能性についても、目を輝かせます。

「今後は、ターゲットを絞った情報発信の強化や、サービスのクオリティを上げ、観光客やリピーターを増やしたいです。そして、将来的に観光がビジネスとして成立することで、観光振興による経済効果を地域内で循環させる仕組みや、この地域で起業する移住者を増やす仕組みなどを作りたいです」と語る中川さん。これからも挑戦は続きます。



▲「うらかわで短期集中乗馬レッスンプログラム」でのトレッキング風景

地域を創る人

と かつ
十勝編

10 ほった 堀田 ゆき 悠希さん

町民の方から必要とされる 日本一の道の駅を目指して



しほろ 十勝町



株式会社 at LOCAL 代表取締役
中札内村出身。平成24年に土幌町の農家へ嫁ぎ、農業女子としても活躍中！

豊かな自然に恵まれた土幌町。平成29年4月、市街地から程近い場所に道の駅「ピア21しほろ」が移転オープンしました。施設内には、しほろ牛や地元農家の野菜を堪能できる「にじいろ食堂」、町特産のジャガイモを使った極上のフライドポテトを提供する「CAFE KANICHI 寛一」などがあり、土幌の味覚を手軽に楽しめることもあって、町内外から連日多くの人が集まり賑わいを見せています。

オープンから今年のゴールデンウィーク中までの入場者数は50万人を突破し、今や十勝管内の新たな人気観光スポットとなつていますが、その立役者であり、これらの店舗を運営する「株式会社 at LOCAL」代表の堀田悠希さんは「これまでの道のりは、決して平坦ではなかった」と話します。オープン当初、道の駅には多くのお客様が訪れ、非常に忙しい時

期がしばらく続きました。しかし、堀田さんをはじめ従業員も仕事に慣れていかなかったため、徐々に過労やストレスが蓄積し、その結果、次々と従業員が倒れてしまいました。当時のことを「自分の精神状態を保ちながら、数少ない従業員でそのピンチを乗り越えるのは大変だった」と振り返ります。

その時、心の支えになつたのは、カフェの名前のルーツになつており、土幌町をはじめ十勝の農業の基礎を築きあげた太田寛一氏※です。堀田さんは、町内にある「太田寛一記念室」を訪れ、氏の信念であつた農業を中心とした理想郷「農村ユートピア」の創設に向けた歩みや、生産者自身が加工して付加価値を高め、商品を販売することの大切さを改めて認識し、氏の思いや信念を胸に、経営に尽力されたそうです。今では、難局を乗り越えた従業員同士の結束力は固く、「これまで一人の退職者も

いないことが何より嬉しい」と笑顔で語ります。「役場や商工会など地元の方々のサポートもあって、ここまで来られた」と感謝する堀田さん。今年4月には、農業に関する人材育成や加工品の製造・販売などを行う会社「株式会社 Cheers」が町内に設立され、新たな連携効果も期待されています。

今後の目標について尋ねると、「真に町民の方から必要とされる日本一の道の駅をつくりたい」と目を輝かせて話す姿に、強い意志と揺るぎない信念が表れていました。



▲「CAFE KANICHI 寛一」の店舗
▲土幌町のジャガイモを使ったフライドポテトが絶品



※太田 寛一氏(1915年～1984年)・・・北海道協同乳業株式会社(現、よつ葉乳業株式会社)の創業者。北海道農業の振興、農畜産物の流通加工の近代化等に尽力。藍綬褒章(1980年)、勲三等旭日中綬章(1984年)、北海道開発功労賞(1985年)を受章(受賞)。

森崎博之、北海道での就職にエールを送ります。



北海道か、北海道以外か。
どっちで就職しようか迷っている、そのあなた。
確かに、東京なんかには仕事がたくさんある。
なんとなくキラキラしてるし、
「若い時だから東京へ」なんて憧れるのもわかる。
でも、北海道だって就職の場として
負けず劣らず良いんじゃないかって思うんです。
地方である北海道だからこそ、
若いうちからできることが山ほどあるし
自分で仕事を切り開いていく楽しみだってある。
可能性がごろごろ転がっていますよ、この大地には。
「どこで就職するか？」と悩んだら、
まずは「北海道で働こう応援会議」を覗いてみると、
いろいろ始まるんじゃないかなあ。



北海道で働こうと思う、就活中のあなたを応援します。

北海道で働こう

検索

【事務局】北海道新聞社経営企画局

TEL 011-210-5507

北海道経済産業局、北海道、北海道教育庁、札幌市、北海道経済連合会、北海道経済同友会、北海道商工会連合会、札幌商工会議所、北海道商工会連合会、北海道中小企業家同友会、北海道中小企業団体中央会、北海道建設業協会、北海道機械工業会、北海道IT推進協会、北海道大学、北海道教育大学、日本私立大学協会北海道支部、北海道私立専修学校各種学校連合会、北洋銀行、北海道銀行、北海道信用金庫協会、キャリアバンク株式会社、リージョンズ株式会社、株式会社クリエイティブオフィスキュー、北海道文化放送、テレビ北海道、エフエム北海道、北海道新聞社、種内で働く応援会議



本当に人を必要としている、
北海道の企業を探すなら



環境負荷の低減や災害時の交通機能の維持、
さらには道民の皆さんの健康増進など、
自転車の持つメリットを生かし、
自転車利用者・歩行者の安全の確保や
サイクルツーリズムの振興を図ることを目指して
「北海道自転車条例」が4月1日から施行されました。



北海道自転車条例が施行されました

北海道 自転車条例

検索



道民のみなさんへ

- ★自転車に乗る時は、乗車用ヘルメットを着用しましょう
- ★万が一の事故に備え、自転車損害賠償保険等に加入しましょう
- ★夜間はライトを点灯し、自転車の側面には反射器材を付けましょう
- ★自動車等運転者は、思いやりのある運転を心がけましょう

お問い合わせ先：北海道総合政策部地域創生局地域戦略課
TEL：011-204-5148



バックナンバーは、創るWEBで

北海道創生ジャーナル

検索

URL：http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/chicho/tsukuru/toppage.htm